

## 1 校内支援会の改善

- 校内支援会以外に職員会で必ず気になる子どもの情報共有を行う時間を確保する。
  - 予防を目的とした情報共有中心の校内支援会を開催することが有効ではないか。
  - リスクレベルが低い段階での校内支援会の開催が必要。
  - リスクレベルに応じた小回りの効く校内支援会を弾力的に開催することが必要。
- 
- 校内支援会を開催するまでの情報収集や整理が必要。
  - SC・SSWとの情報共有時間の増加が必要。
- 
- 校内支援会で決定した支援方法について、全体へ周知し共有することの徹底が必要。
  - 支援方針に基づいた支援の役割分担・支援期間を明確化する。
- 
- 短時間で有用感を感じることができる校内支援会を実施する。
  - 実施した支援の有効性についての評価を確実に行う。

### 校内支援会の実効性のさらなる向上

- 気になる兆候が見え始めた段階で早期に学年会等、小規模で情報共有を行い、支援を開始することの徹底。
- 短時間で作成し、必要な情報を全員で共有できる統一した支援シートの活用。
- 学校規模・校種に応じた効果的で実効性のある校内支援会の進め方について研究を行い、運営マニュアルの提案と般化。
- 相談支援体制の充実を目指した校内支援会の研修の充実。

## 2 支援する教員等の専門性・機動性の向上

- 支援する児童生徒数の増加に伴う、支援コーディネーターの負担の調整・軽減。
- 支援コーディネーターの専門性の向上。
- 若年教員をサポートする仕組み。
- 市町村・学校単位での相談支援体制の構築に向けた研修の強化。
- 授業中や休み時間の子どもの様子に特化した観察と研修。

## 3 関係機関等との連携

- 必要な関係機関へすぐに連絡・相談できるような一覧リストの作成。
- 校種間、関係機関との情報の引き継ぎ・共有・連携の強化。
- 情報共有を行うためのツール(入力シート)の一元化と統一。
- 対象の子どもについて過去からの状況や経過が分かるフェイスシートの作成。

### 校種間・関係機関の情報・行動連携の強化

- 校種間での個別支援シートを用いた支援連携の強化
- 連携に至らない課題の洗い出しと改善マニュアルの作成

## 4 保護者・子どもとの信頼関係の構築

- 子どもや保護者との信頼関係を強固にするための時間の確保。
- 児童生徒との悉皆面談の定期的な実施。
- 子どもの支援方針について学校が保護者に積極的に周知すること。

### 子どもや保護者に寄り添うことを中心に据えた業務の精選

## 5 職場の親和性

- お互いに悩みを打ち明けられる同僚性を高めること。
- 教員同士の密な情報交換(コミュニケーション)の実施。
- 担任一人で抱え込みをしない職場環境づくり。

### 親和性の教職員集団構築のためのマネジメント